

さわがせ

号 数 第 3 3 2 号

発行日 令和4年12月1日

発行所 金光教 韮 教会

〒550-0011

大阪市西区阿波座 2-2-10

TEL&FAX 06(6541) 6313

mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



3年ぶりに他の教会の先生に祭員としてご奉仕いただき、
生神金光大神大祭が仕えられました（10月23日）

一年を振り返りて

教会長 鍵山公生

今年も残すところひと月となりました。コロナ感染症が流行するようになって3年あまり。そのうちに収束するのではとワクチンを打ってもらい、安易に構えていましたが、あに凶らんや感染症も進化して、私たちに苦しみ続けています。

旅行業者を始め、その客を当てにしていた人達には多大な苦渋の年月が流れ、また今年2月より、国土を広げようとロシアによるウクライナへの侵攻が続き、平和に暮らす人々の家屋や自然を破壊し、また多くの人々が殺害され続けています。その結果世界中の経済事情も悪化の途をたどり、私達には直接関係ないかと軽く考えていた生活面に、食料や燃料、電気料など様々な物が高騰し、人々の暮らしは日に日に圧迫されています。

また先の総理大臣安倍晋三氏の狙撃事件に発した旧統一教会一連の事件は、宗



教を利用した集金教団といっても過言ではない人たちにより人々を苦しめ、まじめに人助けに取り組んでいる他の宗教団体にとって大変迷惑がかかっています。

コロナ感染により信奉者が参拝できなくなり、或いは教会への道中や広前で感染しないかと心配して、参拝が遠のく方もあります。

食料販売を自営していた方の従業員やその家族が感染したため、その従業員の補充に困ったり、その上お客の来店回数が減少するなど困ったことが起こりました。

保育園に勤務の方にあっては、子供が触る遊具など全て、毎日消毒しなければならず、毎日が大変忙しくなると訴える方もありました。

ご本部参拝について、当教会では教会長はじめ代表者はおかげで毎月参拝させていただいていますが、その数は減少し、ご本部でも他の参拝者との接触を避けるため、本部広前にて参拝できるのは教会長ほか一名に制限されたり、祭場での御祈念も大きな声で拝詞も唱えられず、今までのように元気な祭典をいただけなくなりました。

これらのことを振り返り、これからどのような生活を進めていけばいいかを考えてみました。

金光様は、「信心する者は驚いてはならない。これから後どんな大きなことができて、少しも驚いてはならない。」「徳のない内は心配する。神徳を受ければ心配はいらない」「心配する心で信心をせよ。」「我が心が神に向うを信心というのじゃ。」と仰せくださり、このようなときこそ日常の真の信心を發揮する時だと思えます。



身体に差し支えがあった時は、「今日は参拝させていただく予定でしたが体の都合が悪く、ご無礼をおゆるしく下さいませ、」と言って家の神棚に向かってお断りさせていただくことです。そうすれば必ず神様に心が通じるものです。

「ここへ（お広前）たびたび参ってこなくてもよい。参ってきて、金をこれだけ使った、これだけあればあのことができたのと思うようでは、神様にご心配をかけるようなものである。神様は親であるから、氏子が心配するにはかわいそうだと思われる。無理にたくさんのお金を使って参らなくても、うちで信心しても守ってくださる。」と親心をもって仰せくださっています。しかしこの御教えに甘え、「参らなくても神様は守ってくださるのだから、」などと軽く思わないことです。そこから「いやそれでも教会にお参りして日頃おかげを受けているお礼を申させていただきたい。」と思う心に、たとえお参りができなくとも神様のお徳をいただくことができるのです。

「お参りするには、三日前から考えて、お願いしておけば都合がつく。（農家

の人が) 朝少し早く起きて草を刈り、昼みんなが茶を飲む時に心がけて草を刈るといように三日前から牛の餌を用意しておけば、親が心配することも牛が不自由することもない。」と参拝するために、周りの人たちに迷惑がかからない手立をして取り組むことが大切です。

また日常家庭において、腰が痛い、足が悪いのなどと不足たらたら言っていると、「そんなに痛むなら外へ出るな。外で転けたら大変だ、」と止められてしまいます。いつも不足を言わず、神様はありがたい、金光様はありがたいと言って感謝した生活をしていると、家族の人も「そんなにお参りをしたいなら車で送ってあげる」などといって協力してくださるものです。時には「私が代わりに参拝させてもらう」と言ってくださるかもしれません。そこに日常の信心結果が現れてくるものです。

「心配は信心さえすれば、みなおかげになる。心配は体に毒。神様に御無礼。

今日から心配する心を神様に預けて信心する心になるがよい。おかげになる。」

また日常の信心の仕方について

「親にものを言うように、朝起きたら神にお礼を申し、その日のことが都合よくいくように願い、よそへ行くときには、行ってまいりますと言ってお届け申しあげよ。そして、帰ってきたら、無事で帰りましたとお礼を言い、夜寝るときにはまた、その日のお礼を申して寝るようにすれば、それで信心になる。」

「心配する心で信心をせよ。」と仰せのように、心配な事ができた時は真剣に、そして一心に願うものです。その心を発揮して年末年始を面白く、嬉しく、ありがたく、過ごさせていただきましょう。

さわかせ賛助会員募集

韃教会機関紙「さわかせ」は、皆様のお祈りとお力添えによりまして、令和4年度は7回の発刊が出来、教会内外のお役に立たせていただいて参りました。皆様からご意見やご感想をお寄せいただき、より立派で楽しい機関紙にお育ていただけますよう宜しくお願いいたします。

さて、今年に引き続き、来年度の賛助会員を募集いたします。今後とも教会機関紙永続発展のため、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

なお、一口千円で、二口以上ご協力下さい。

申込はなるべく、12月末日までお願いいたします。

郵便振替口座番号 00950-3-61515
口座名義 金光教韃教会

令和4年12月

- 1日(木) 月例祭並びに
初代教会長例年祭(79年) 執行
午後2時
- 4日(日) うりわり墓参 午前7時
- 10日(土) 月例祭執行 午前10時30分
- 11日(日) 布教功労者報徳祭 ご本部参拝
- 16日(金) 信徒共励会 午前10時
- 24日(土) 月例霊祭執行 午後2時
- 祭典後教話、講題:「すべてのはたらきはご神体の中で」
講師:金光教三国教会 杉田清一師
- 30日(金) 越年祭、大祓式(ひとかた行事) 午前10時30分



令和5年1月

- 1日(祝) 元旦祭執行 午前10時30分
- 2日(日) うりわり墓参 午前7時
- 7日(土) 御本部年賀参拝 新幹線にて
- 8日(日) 初月例祭執行 午前10時30分
祭典後、信徒会総会・新年会

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様
もお呼び出ししてご慰霊させていた
だきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、
ご参拝下さい。
(12月24日、午後2時より)

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>